

広報委員長に期待するって

アイドルという言葉に縁のない私ですが、アイドルの中に注目している若者が一人います。それはSKE48の須田亜香里さんです。彼女を知ることになったきっかけは、中日新聞に掲載されている彼女のコラム「てくてく歩いてく」です。私は毎週日曜日の朝刊を楽しみにしています。

芸能人の文章ということだけで、いつもならスルーする私ですが、なぜか彼女の文章には興味をもちました。今から考えると、身のまわりのことを深く見詰め、自分なりの考えをもっていることが彼女の文章からわかるからだと思います。

一人のファンからかけられた耳の痛い言葉を冷静に受け止め、自分の使っている言葉を見直したという須田さん。当たり前のように口にしていた母親の料理を、一人暮らしをするようになってから見つめ直し感謝している須田さん。そういう文章を読むと、「若いのに真剣に生きてるんだなあ」と感心します。私は、彼女の生き方のファンになったのかもしれない。

今朝も委員長候補者の面接に立ち合いました。広報委員長立候補者三名の面接です。どの立候補者も、放送を通して給食時間を楽しいものにしたという前向きな気持ちをもっていました。その分、「一人に絞るのが苦しいなあ」と思いました。また、「(給食時間は)楽しいだけでいいのかなあ」という思いも生まれました。そんな彼女たちに、私は次のような期待をかけています。

「だれが広報委員長になっても、瑞浪北中学校を、そして、瑞浪北中生を深く見つめて自分なりの考えをもつてほしい。それを全校に投げかけられる広報委員長になってほしい。広報の役割は、その時間を楽しくすることだけではなく、独自の見方で全校を刺激して波紋(はもん)を広げることもある。聞くに値することであれば、仲間は必ず耳を傾けるはず。そんな広報委員長、広報委員会を目指してほしい。」

究極のアドリブですね。でも、それができたら、刺激的な給食時間になると思うけどなあ。